

8 章 光ケーブル工

8.1 光ケーブル配管工

8.1.1 適用

8.1.2 土工

8.1.3 配管設置

8.1.4 ハンドホール設置

8章 光ケーブル工

8.1 光ケーブル配管工

8.1.1 適用

1. 適用

河川堤防に布設する光ケーブル配管工事に適用する。

8.1.2 土工

1. 適用

光ケーブル配管工事の土工に適用する。

2. 数量算出項目

掘削、埋戻しの土量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、土質、施工形態とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

| 項目 \ 区分 | 土質 | 単位 | 数量 | 備考 |
|---------|----|----------------|----|------------------|
| 掘削延長 | × | m | | |
| 掘削 | × | m ³ | | レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用 |
| 埋戻し・締固め | ○ | m ³ | | 〃 |
| 残土処理 | × | m ³ | | |

(注) 1. 掘削延長は、埋設部掘削総延長よりハンドホール幅を除いた延長とする。

2. 掘削及び残土処理数量は、地山数量とする。

3. 埋戻し・締固め数量は、締固め後数量とする。

(2) 土質区分

土質による区分は、以下のとおりとする。

土質 ———— 土砂
 └── 敷砂・保護砂

8.1.3 配管設置

1. 適用

配管及び付属品の設置に適用する。

2. 数量算出項目

配管の設置延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工区分、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

| 項目 | 区 分 | | | | |
|--------------------------------|------|-------|--------|-----|--------------------|
| | 施工区分 | 規格・仕様 | 単 位 | 数 量 | 備 考 |
| 配管延長（多孔保護管使用区間） 及び多孔保護管使用数量 | × | ○ | m 組 | | 配管条数及び材質 を明記する。 |
| 配管延長 （多孔保護管未使用区間） | × | ○ | m | | 〃 |
| 厚鋼電線管類延長 | × | ○ | m | | |
| 配管支持金具 | × | ○ | 個 | | |
| プルボックス | ○ | ○ | 個 | | |
| 可とう電線管 | ○ | ○ | m | | |
| 伸縮継手 | ○ | ○ | 個 | | |
| ノーマルバンド | ○ | ○ | 個 | | |

- 注) 1. 配管継手材の材料延長は、配管類の設置延長に含める。
 2. 配管延長は、埋設部の設置延長を算出する。
 3. 厚鋼電線管類延長は、露出部の設置延長を算出する。

(2) 施工区分

1. 埋設部、露出部ごとに算出する。
 注) 露出部とは管路を構造物等に添架して設置する部分をいう。

8.1.4 ハンドホール設置

1. 適用

ハンドホール、蓋等の設置に適用する。

2. 数量算出項目

ハンドホール、蓋を区分ごとに算出する。

3. 区分

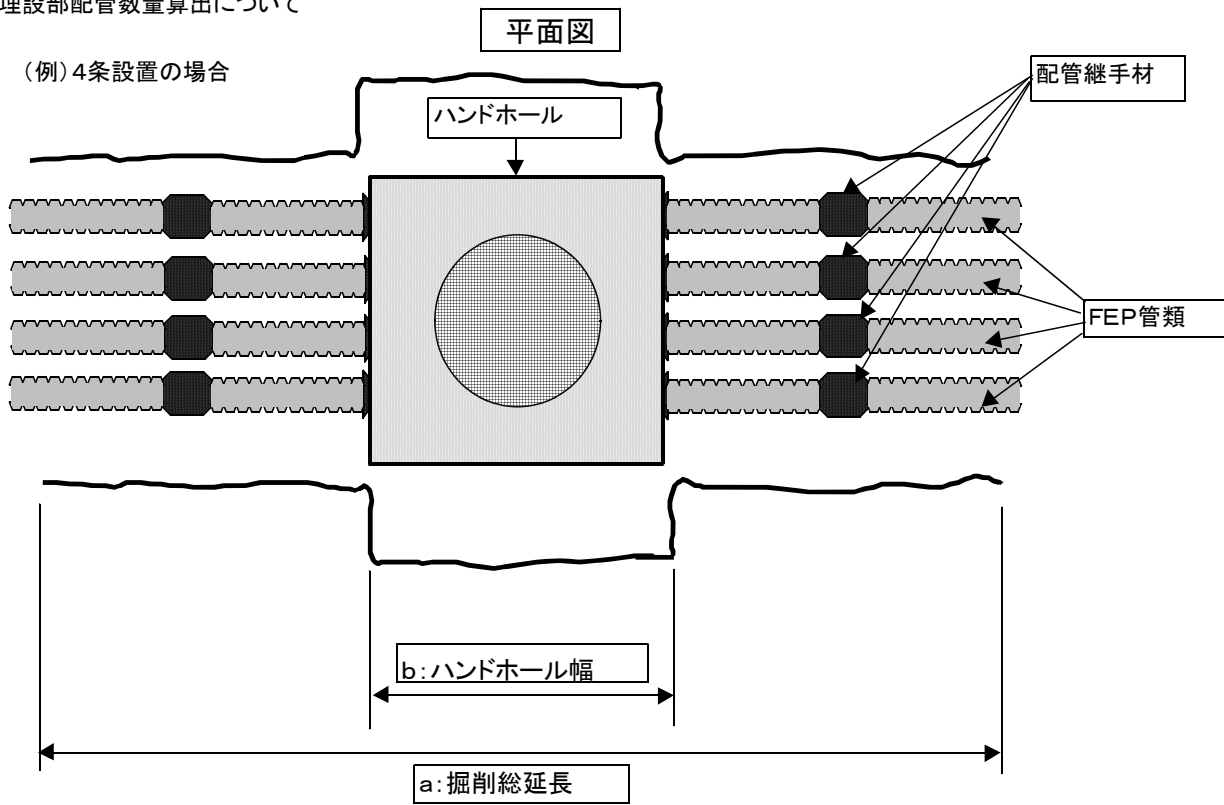
区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

| 項目 \ 区分 | 規格・仕様 | 単位 | 数量 | 備考 |
|---------|-------|----|----|----|
| ハンドホール | ○ | 個 | | |
| 蓋 | ○ | 枚 | | |

[参考図 1]

埋設部配管数量算出について



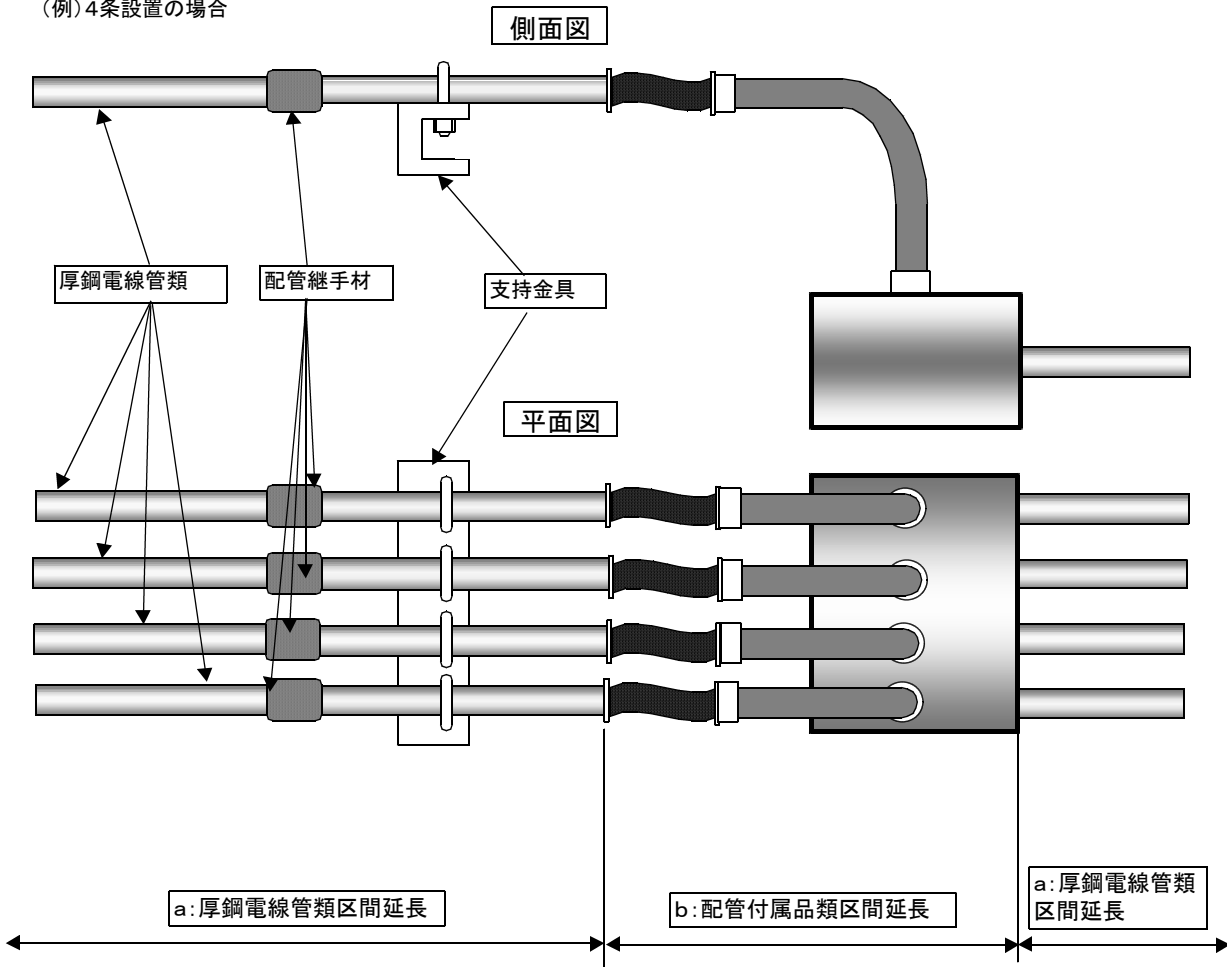
対象延長(掘削延長) = $\ast a - b$ とする。
※ハンドホール幅は除き、配管継手材等は含む。

配管材料使用量
設計数量 \times 条数 \ast 設計数量 = FEP管類延長
FEP管類延長とは、対象延長(掘削延長) = $a - b$ とする。
諸雑費には、配管継手材を含む。

[参考図 2]

露出部配管数量算出について

(例) 4条設置の場合



対象延長 = ※a + b
 ※a: 厚鋼電線管類区間延長とは
 配管類の設置延長であり、継手材の材料延長は含まれている。
 b: 配管付属品類区間延長とは
 配管及び配管継手以外の配管部品の設置延長である。
 (例)
 プルボックス、可とう電線管、伸縮継手、ノーマルベント、その他必要な部品

配管材料使用量
 設計数量 × 条数 ※設計数量 = a: 厚鋼電線管類区間延長
 諸雑費には、配管継手材の材料費等を含む。
 支持金具及び配管付属品類は、別途必要量を計上する。